

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道41号 美濃加茂バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局	
起終点	自：岐阜県美濃加茂市太田町 至：岐阜県加茂郡川辺町石神		延長		9.4 km		
事業概要							
<p>一般国道41号美濃加茂バイパスは、岐阜県美濃加茂市太田町から加茂郡川辺町石神に至る延長9.4 kmのバイパスである。</p> <p>美濃加茂バイパスに並行する国道21号、県道371号（旧国道41号現道）には、主要渋滞箇所や事故危険区間の課題があり、本事業により、交通渋滞の緩和、交通事故の減少等の効果を見込んでいる。</p>							
S49年度事業化	S49年度都市計画決定	S53年度用地着手	S58年度工事着手				
S55年度都市計画決定							
全体事業費	645億円	事業進捗率 (令和4年3月末時点)	約78%	供用済延長	9.4 km		
計画交通量	29,900 台/日						
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	1.8	総費用 (残事業)/(事業全体)	142/1,358億円		総便益 (残事業)/(事業全体)	基準年 令和4年
	(残事業)	2.6	事業費	106/1,248億円		走行時間短縮便益	
			維持管理費	36/110億円		走行経費減少便益	27/230億円
						交通事故減少便益	9.3/72億円
感度分析の結果							
<p>【全体事業】交通量変動：B/C=1.6～1.9(交通量 ±10%) 【残事業】B/C=2.3～2.8(交通量 ±10%)</p> <p>事業費変動：B/C=1.7～1.8(事業費 ±10%) B/C=2.4～2.8(事業費 ±10%)</p> <p>事業期間変動：B/C=1.7～1.8(事業期間±20%) B/C=2.4～2.7(事業期間±20%)</p>							
事業の効果等							
①円滑なモビリティの確保							
<ul style="list-style-type: none"> ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・利便性の向上が期待できるバス路線（美濃加茂市コミュニティバス、川辺町福祉バス）が存在する。 ・特急停車駅（美濃太田駅）へのアクセス向上が見込まれる。 ・その他の空港（名古屋飛行場）へのアクセス向上が見込まれる。 							
②国土・地域ネットワークの構築							
<ul style="list-style-type: none"> ・日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する。 ・日常活動圏中心都市へのアクセス向上が見込まれる。 							
③個性ある地域の形成							
<ul style="list-style-type: none"> ・拠点開発プロジェクト（美濃加茂市立地適正化計画）、地域連携プロジェクト（みのかも定住自立圏第3次共生ビジョン）を支援する。 ・主要観光地（ぎふ清流里山公園、リバーポートパーク美濃加茂、ロックタウンプラザ）へのアクセス向上が期待される。 							
④安全で安心できるくらしの確保							
<ul style="list-style-type: none"> ・三次医療施設（中濃厚生病院）へのアクセス向上が見込まれる。 							
⑤災害への備え							
<ul style="list-style-type: none"> ・第一次緊急輸送路として位置づけられている。 							
⑥地球環境の保全							
<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減が見込まれる。 							
⑦生活環境の改善・保全							
<ul style="list-style-type: none"> ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。 							

関係する地方公共団体等の意見

岐阜県知事の意見：

対応方針（原案）のとおり、事業の継続について異存ありません。

一般国道41号美濃加茂バイパスは、主要渋滞箇所や事故危険区間の課題があり、整備により、交通渋滞の緩和、交通事故の減少等の効果をもたらす重要な道路と考えていることから、引き続き早期完成に向けた事業の推進をお願いします。

事業費については、最新技術の活用も含めて、徹底したコスト縮減をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

・対応方針（原案）は妥当である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・一般国道21号坂祝バイパスが平成28年3月に開通している。
- ・一般国道21号坂祝バイパスの開通後、美濃加茂バイパスでは、平面4車線供用している太田町交差点付近の交通量が増加し、朝夕ピーク時に著しい渋滞が発生している。（最大渋滞長230m：令和3年2月17日 18時台）
- ・美濃加茂市は美濃加茂バイパス全線開通後、周辺町村と「みのかも定住自立圏」に関する協定を締結し、圏域全体の活性化、人口定住を図っている。
- ・美濃加茂バイパスの整備進展に伴い、沿線地域では多くの企業立地に伴い工場事業所数等が増加し、人口が増加するなど地域経済が発展している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率約78%（令和4年3月末時点）、用地取得率約100%（令和4年3月末時点）。
- ・平成24年度までに全線暫定2車線開通済み、平成26年3月に太田町周辺が4車線で開通済み。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・関連する周辺事業の整備状況や、美濃加茂市周辺における将来ネットワークの検討状況を踏まえ、完成4車線化に向けた調査設計を推進する。

施設の構造や工法の変更等

・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

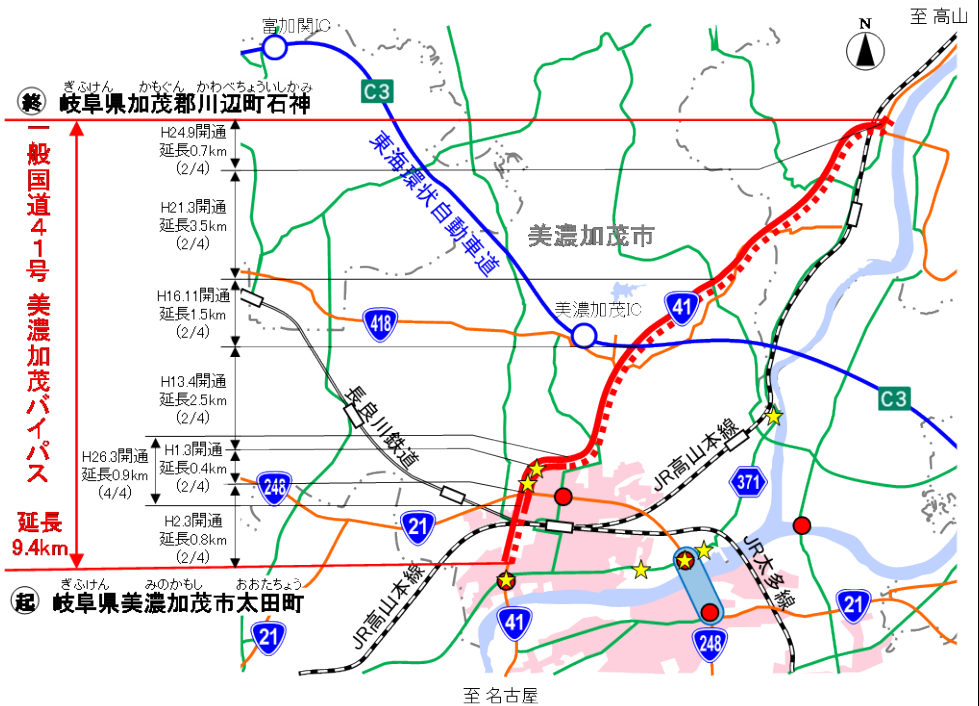
以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



凡例

	4車線		2車線		美濃加茂バイパス
	高規格道路				一般国道
	地方道				主要渋滞箇所
	鉄道(JR)				主要渋滞区間
	鉄道(私鉄)				事故危険区間



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。